

平成24年度

第3回幼児教育実践学会 口頭発表

「幼児期の発達に即した保育のあり方を探る」

～ごっこ遊びに見る子どもの育ち、教師の援助は～

岩手県 盛岡幼児研究会

山田恵子（聖パウロ幼稚園）

渡部麻美（聖パウロ幼稚園）

はじめに

盛岡幼児研究会は昭和40年12月に盛岡市内の国公立・私立幼稚園に勤務する有志の先生方で発足した。「自分達のやっていることを積み上げ研究をしていきたい。一緒に学び合いたい」という熱い思いが実を結び、14名が集っての発会式となった。発足のきっかけとなったのが、その年の7月に京都で開催された私立幼稚園の全国大会でのこと、ある県の何年かの積み重ねの研究発表を聞き、「もう少し積み上げのできる自主的な研究会をつくりたい」との思いがわいてきた。『日の短い時期のこととて、直ぐ真っ暗になったが、私たちの心は本当の仲間めぐり合えたような喜びであった。一抜粋』とその時の心情が研究収録「雪割草」の創刊号に記されている。

以来、その歩は45年と歴史を重ねてきたが、一人一人の子どもと真摯に向き合い、自分たちが日々展開する保育を振り返り保育の資質向上につなげていくために、事例を持ち寄りわかり合うまで徹底的に話し合う研究スタイルは変わることなく継承されている。「もっと知りたい」「保育の質を高めたい」と純粋に願う会員がお互いに切磋琢磨し学び合っていく、この会の大きな特徴である。「知りたい」という気持ちを追及し続け、大学等の専門の先生をお招きして指導をしていただき、自分たちなりに会の成長を願い運営している。

時には「よく学びよく遊べ」のモットーのもとでの楽しい計画の中での学びも、会員同士のつながりを深める貴重な機会であり幼児研究会の伝統でもある。

税制抜本改革とともに論じられた幼児教育の急速な方向性に振り回され、幼稚園界全体が大きな渦の中に置かれている。

そのような流れの中で、学校教育法で位置づけられた、3歳から就学までの幼児教育の方向性と役割をしっかりと見つめなおし、さらに充実した保育を展開していくための学びを続けていくことが何よりも重要だと思う。足元を見つめ、一つ一つ積み重ね学び続ける集団としてこれからも共に成長していく幼児研究会でありたいと願っている。

I 研究にあたって

これまで、質の高い保育をめざしたいという願いを持ち「幼児期の発達に即した指導のあり方」について探ってきた。はじめに、私たちが目指している「保育の質」とはなにか、共通理解をしてスタートしたいとの願いから、平成19年2月河邊貴子先生（聖心女子大学教育学科教育学・初等教育学専攻教授）を招いてお話を聞いた。その中で、「ごっこ遊びは幼稚園の専売特許であり、実は小1・2年生くらいまでたっぷり遊びこむ必要がある」という言葉にみんなが漠然とではあるが「そうだ！」との思いで聞き取った。

同年10月に実践を話し合う中で実践例を提供した先生から、「ごっこ遊びが充実できない、うまく発展できない」という悩みが出された。なぜ、ごっこ遊びは幼稚園の専売特許なのか、そのよさは何なのか、そこで何を学びとっているのか、実践例を通してもっとわかり合いたいと思った。

そこで、21・22年度は「ごっこ遊び」に焦点をしばってテーマに迫る研究をすすめることにした。このことにより、子どもたちが幼児期ならではの豊かな体験を積み重ねることにつながると考えた。

Ⅱ 研究内容

1 「ごっこ遊び」について共通理解する（文献等）

- 子どもが見たり聞いたりしたことを、表情、身振りを使って役割を取りいろいろな物を見立てる遊び
- 経験をもとに自分なりのイメージを出し合い、一つのテーマに向かい組み立てていく遊び
- 役割、見立て、筋立てが遊びの要素

（現代保育用語辞典・幼稚園辞典より）

2 どんなごっこ遊びがあるか出し合い、整理する

- (1) 家庭生活の中で経験したことを再現して楽しんでいる遊び
例えば お家ごっこ
 - (2) 園みんなで共通経験したこと(行事や絵本童話の読み聞かせなど)から始まる遊び
例えば プラネタリウムごっこ、遠足ごっこ、バザーごっこ、人形劇ごっこ、忍者ごっこ、エルマーごっこ
 - (3) 地域や社会で経験したことがきっかけで始まる遊び
例えば お店屋さんごっこ、お祭りごっこ、レストランごっこ、病院ごっこ、美容院ごっこ、映画館ごっこ、電車ごっこ
 - (4) ルールのある集団遊び
例えば 鬼ごっこ
- *今回は、ルールのある鬼ごっこなどは、研究の対象から省くこととした。

Ⅲ 実践

◎実践例1 4歳児 「探検ごっこ」

聖パウロ幼稚園の取り組みから読み取る

～園全体での遊びを通し、学んだこと～

園児数

年少児 19名（満3歳 1名）

年中児 18名

年長児 18名

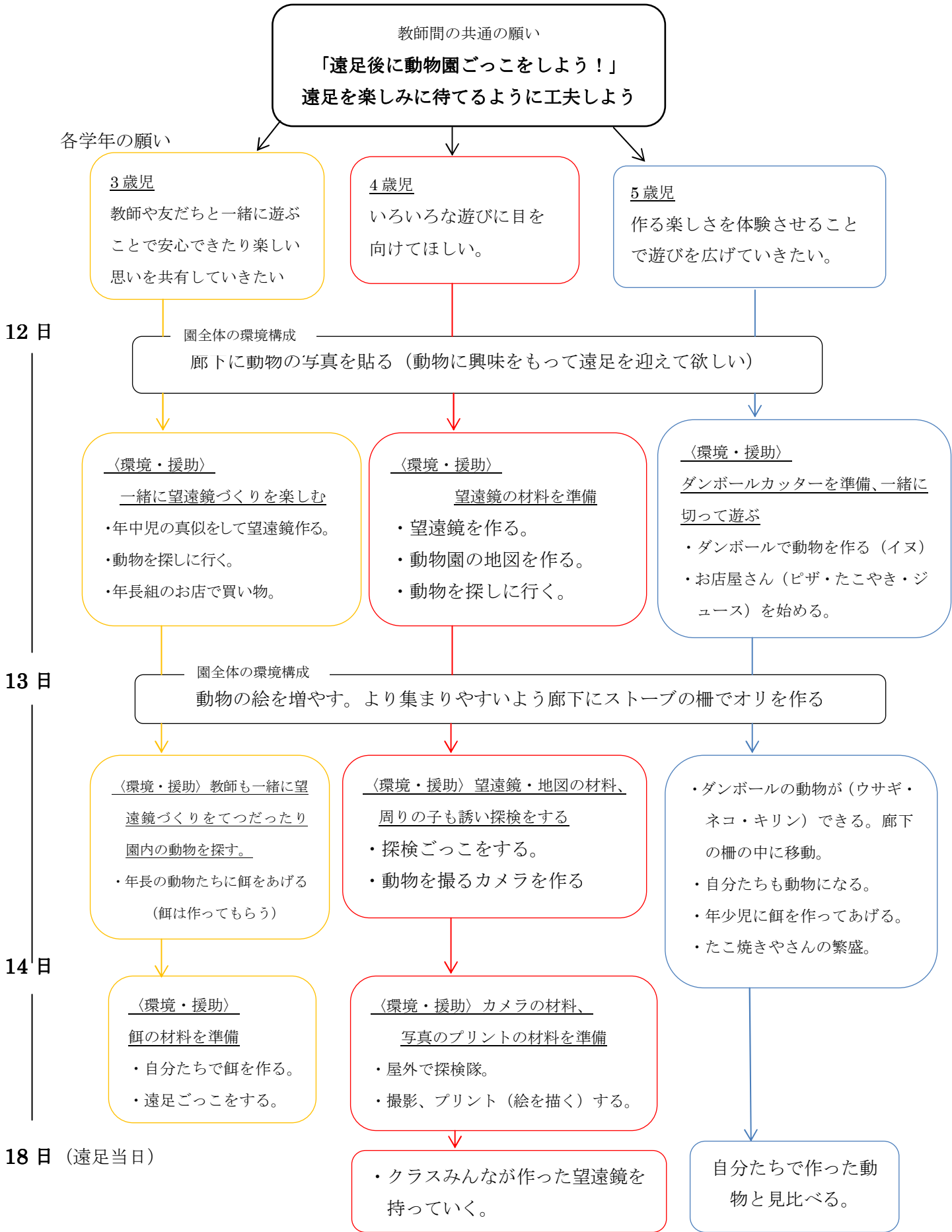
計55名

職員数 10名

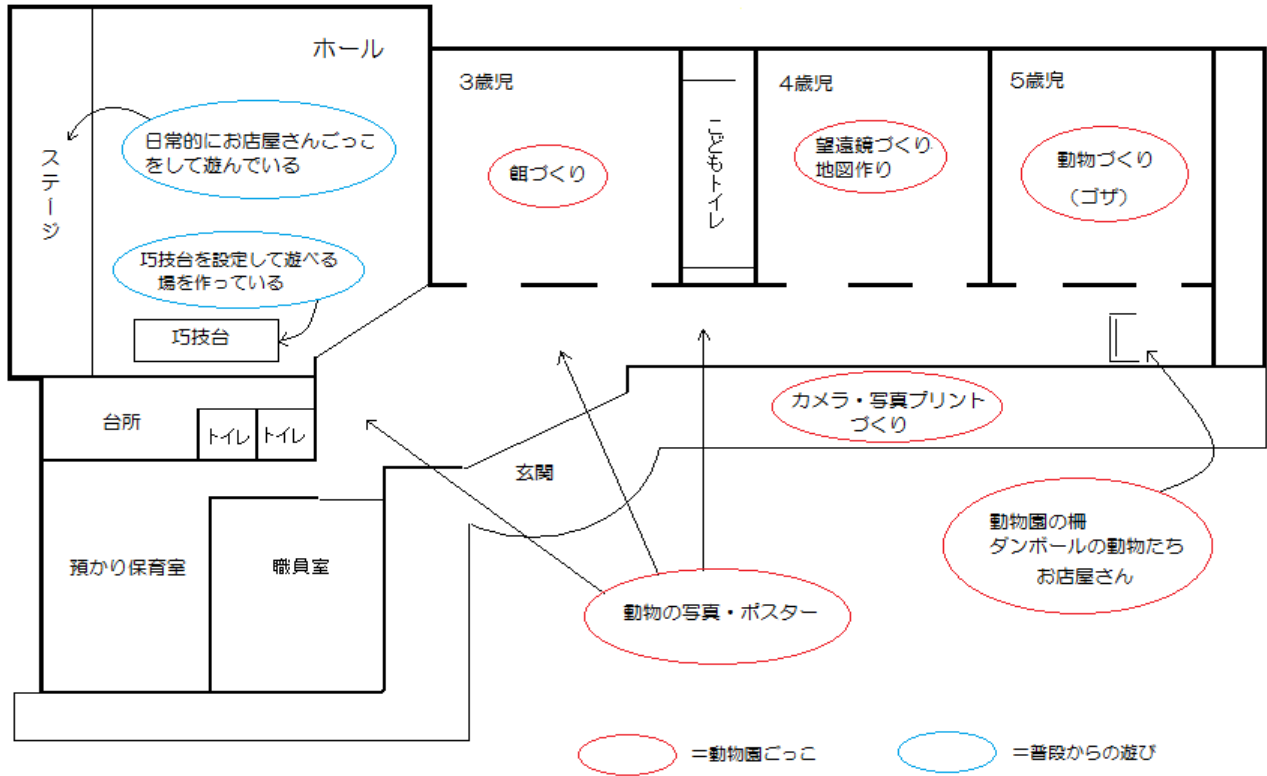


園全体の取り組み（5月12日～5月18日）

・5月18日に盛岡市動物公園へ遠足に行く予定。
 ・共通の経験をすることで、遠足後に動物園ごっこをして楽しめるのではないかな。



園内見取り図



4 歳児 探検ごっこ

男 7 名 女 10 名 (進級児 11 名 新入児 6 名) 計 17 名

担任 渡部麻美

1 クラスの様子

進級児は気の合う友だちと好きな遊び (ままごと・ヒーローごっこ) を楽しんだり、新入園児に対して優しく声をかけ、園の生活の仕方を教えたりしている。

新入園児は登園を渋ることは少なく、連休明けも幼稚園を楽しみにし、部屋でお絵かきや粘土をしたり、ホールの巧技台や大型積み木で遊んだりしていた。

2 事例を取り上げた理由

進級児のA男は、新入園児のB男と気が合い仲良くなった。A男は満3歳 (4月生まれ) で入園しており、年上の子たちと遊ぶことが多かった。新学期、二人は年長の男児数人と一緒にゴセイジャーごっこを楽しんでいた。そのうちに、プリキュアごっこをしているC子たちをいつも敵にして、逃げて走り回ることを繰り返すようになった。

他の教師に「A男たちは、ほんとうにその遊びを楽しんでいるのか」と指摘されるまで「遊べているから…」とそのままにしてしまった。遊びの読みとりと環境への配慮が足りなかったと思う。

そこで、A男とB男が二人でいることが心地よく楽しいという気持ちを大事にしなが、戦いごっこだけではなくいろいろな遊びに目を向け、楽しんでほしいという願いをもった。また、B男は他の遊び方を知らず、A男が毎日やるからヒーローごっこだけをやっているように感じたので、A男たちの興味をひく環境を設定することで、二人の遊びを広げることができるのではないかと考えた。

3 環境の設定

<園全体での取り組み>

入園・進級し一ヵ月経った今の時期には、どんな投げかけをしていくと楽しい遊びが経験できるのか職員間で話し合った。その話し合いから、近々に予定されている動物公園への親子遠足をきっかけとして“動物園ごっこ”ができたらと願い、遠足に行く前にも「楽しみに待てるように」と園舎内の廊下の壁に動物の写真やポスターを貼りだすことにした。

また、各年齢でも“動物園”をテーマに遊びが楽しく展開できるように、環境の見直しと準備をしていくことにした。（尚当園は、各年齢が一クラスずつの三クラスである）

<4歳児の環境設定>

数日前にA男とB男がトイレットペーパーの芯で望遠鏡を作っていたが、あまり使わず道具箱に入れたままになっていた。この二人も含め、クラスのみんなども壁に貼ってある動物を探しに行く時に使うかもしれないと思い、新たに望遠鏡の材料（トイレットペーパーの芯・折り紙・ひも）を用意した。

4 遊びの姿と読み取り

_____役割 _____見立て筋立て

① 5月12日「望遠鏡と地図作り」

B男が登園してきて、机の上の材料に興味を示す。

B男：「これで何するの？」

教師：「今日ね、幼稚園の中におもしろい物があるんだよ。B男くんたち望遠鏡作ったでしょ？それ使ったらよく見つけられるんじゃないかなあと思って。」

B男：「ふーん。じゃあ行ってみる」

自分の望遠鏡を取ってきて廊下に貼ってある動物を見つける。

B男：「ゾウさん見つけたよ！動物園にはもっといるのかな」

教師：「動物園の地図見てみようか」

パンフレットの地図を見るうち、自分の地図があるといいということになり、見本を見ながら描き始めた。クラスだけではなく年長や年少の子もきて、「ぼくも作る！」と望遠鏡を作ったり地図を描いたりし、廊下の写真を見て楽しんでた。その後、B男は年長の男児たちとホールで基地づくりをして遊んでいた。

しかし、A男が登園するとみんなで剣を出し、戦いごっこが始まった。A男達は廊下を走り、C子を見つけると「プリキュアをみつけたぞ」と剣で闘おうとする。

教師：「C子ちゃんたちは今プリキュアじゃなくて望遠鏡作って探検隊しようって遊んでたんだよ。何も聞かないでいきなりそんなことしていいの？」

年長：「…ううん。ごめんなさい」年長の子は別の場所に遊びに行く

教師：「A男くんたちもだよ」

A男：「はい。…じゃあぼくもやめて探検隊する」

教師：「じゃあ一緒にいこうよ」

A男もB男と自分の望遠鏡をもってくと「動物発見するぞ！」と探しに出かけたが、貼ってある動物を一通り見つけたところで片付けの時間となった。

- ・望遠鏡は前に作っていたが、あまり展開しなかった。しかし今回動物のポスターを貼ったことで、遊びが繋がった。「見たい、探したい」という興味をもてる対象があって、初めて続けて楽しめる遊びになっていくことが分かった。

- ・A男とB男はいつもの戦いごっこで遊ぶことをとても楽しみにしている様子だったが、B男は他の遊び方が分からず、A男を頼りにしていたのではないかと感じた。
- ・A男は、新しい遊びに自分から入ったり、遊びを見つけたりするより、慣れている遊びをすることが多かった。今回はクラスの雰囲気や誘われたことで探検隊に興味をもったようだった。
- ・二人とも望遠鏡や地図作り、動物探しも楽しんでいたので、引き続き投げかけていくことにした。

② 5月13日 「動物発見！」

望遠鏡をさげた動物探しの探検隊が年少にも広がり、楽しそうだったので、園内の動物の絵を増やした。年長が作っていたダンボールの動物（ネコ、キリン、ウサギ、ワニ）ができ、ストーブの柵を年長組の廊下にセットし、その中に動物たちを入れ、より動物園らしくした。年長がたこ焼きやさんやピザやさんを开店する。

クラスの女兒たちが動物探検に興味をもった様子だったので、「望遠鏡を作ってみなでいこう」と話していると、B男と年長のD男が歩いてきた。

教師：「これから動物探しに行くんだ。」

B男：「じゃあぼくもやる」

D男：「ぼくも！あ、でも望遠鏡がないや」

B男：「つくればいいよ」

年中組の部屋で作っていると、昨日望遠鏡作りをしなかった年長の男児たちもきて参加する。みんなが完成すると、年長児が「よしくぞ！出発！」と声をかけて探検隊が出発した。望遠鏡を目にあてて抜き足差し足をしたり、「昨日いなかったのがこっちにいたぞ！」と声をかけあってみんなで集まったり、探検の雰囲気を楽しんでいる。ホールや職員室、年長組の動物たちを探しながら年中組の部屋に戻ってきた時、ちょうどA男が登園してきた。

A男：「あ、B男くん、ゴセイジャーごっこしよう」

B男：「ぼくもうやめるー」

教師：「今、探検しに行くんだよ。A男くんもこない？」

A男：「…やっぱ、それする！」

他の子は昨日B男が描いたような地図を持ってもう一回探検することにする。A男も一緒に地図を描き、それを持って見つけた動物を書き込む真似をしながら一緒に探検した。その時の様子を教師がカメラで撮っていると、

A男：「ぼくもカメラ作って動物撮る！」

他の子たちもいったん部屋に戻り、空き箱でカメラを作ってまた出発していった。できたカメラをもって年長組の動物園に行く。

年長組では、探検していた子も動物を作り、廊下の動物が増える。年少児は、動物園の動物にエサをあげたくて、紙を切ってエサ作りし、エサをやりに出かける。エサやりで檻の中が散らかると、年長児がほうきで掃いたりしていた。そのうち自分たちも檻の中に入ってネコや犬になりきって遊び始め、A男もB男もその中に入って一緒に楽しんでいた。

- ・年中と年長が、一緒に同じイメージを共有しながら探検ごっこを楽しむことができたと思う。A男も戦いごっこにこだわる訳ではなく、探検隊の気分になってよく遊んだり、カメラづくりという新しい遊びを始めた。遊びのきっかけとなる環境や教師の働きかけの大きさを改めて感じた。
- ・B男は、存在の大きいA男に対しては、A男の気持ちに沿うように遊ぼうとし自分から「こうしよう」ということはなかった。ただ今回は「望遠鏡がないなら作ればいい」と、一緒に遊ぶための提案を自

分からする場面もあり、自分の思いを少しずつ出せるようになってきていると感じた。

- ・前日までは、平面に貼ってある動物を見ているだけだったが、年長は立体のようにして自分たちで動物を作ることを楽しんでいた。動物ができたり、エサをあげたりと雰囲気が動物園らしくなってきたことも、探検ごっこやカメラ作りの刺激になったと思う。



③ 5月14日 「写真と探検ごっこ」

前日に、カメラを作っていたので、“写真のプリント”ができるように厚紙とペンを用意した。天気が良かったので、外に出ているA男とB男。D男が昨日の続きをしにきたので、外で探検隊やろうと誘う。望遠鏡を持って外に出たのを見て、A男とB男も望遠鏡とカメラを持ってくる。“写真”の紙にも興味をもったので、テラスに材料と道具を広げておき、外を探検して撮ってきたものを絵に描けるようにした。

B男：「先生！いちごの花みつけたよ」

A男：「クモみつけてきた！かかなくっちゃ」

年長児も一緒に、いろいろなものを見つけてきては写真を作り、枚数を競ったりしていた。
年長の動物園にも行って“写真を撮って”くる。

A男：「遠足に行っても写真とってこなくちゃ。先生紙と書くやつ持ってって。」

- ・A男もB男もこの日はすぐに戦いごっこを始めるのではなく、見立てて遊ぶことを楽しんでいた。また、A男は次々とアイデアを出しており遊びを十分に楽しんでいるようだった。
- ・前日作ったカメラとこの日用意していた紙から、子ども達もさらにイメージを膨らませていた。遊びは探検隊から、カメラで外の花や虫を写すことに興味に移り、そのことを楽しんでいたと思う。子どもの様子から次の遊びを予想し、環境を用意することで遊びを展開させることができると分かった。



5 考察

- 望遠鏡を使って動物を探す遊びができたらと願い、材料を準備し子ども達に投げかけた。実際に望遠鏡を手にするると探検ごっこが始まり、子どもがアイデアを出したり教師がそれに応え準備したりしたことで、カメラ作り、写真作りへと遊びを展開することができた。教師が遊びのきっかけを作ることと、子どもたちの興味や関心をもとに遊びの環境を設定することが大事である。
- B男はA男についていくことで安定し、A男の言うとおりに遊んでいたが、探検ごっこを自分から興味をもって始めたことで、少しずつ自分の思いを出せるようになってきた。また、同じごっこ遊びでイメージを共有することで、A男以外の友だちとも仲間意識をもち、遊びを楽しむことができたのではないかと。
- 戦いごっこで遊んでいたA男が、探検ごっこに興味をもてたのは、楽しんで遊んでいるB男たちの姿に刺激を受けたからではないかと思う。A男も別の遊びを始めるきっかけを探していたのかもしれないと思った。カメラ作りなど、いろいろなことに気付き、アイデアを出せる子なので、もっと遊びの経験を広げていきたい。

6 園としての考察

- 連休明けの5月、新しい生活に慣れ周囲が見えてきた時期、戦いごっこのようなやり慣れた遊びになりがちな様子など、それぞれのクラスでの課題がでてきた。子ども達が“おもしろい”遊びに出合っしてほしいという教師間の共通した願いから、親子遠足を体験することで、共通のイメージを持ってごっこ遊びができるのではないかと考えた。そこで、教師間で話し合い「遠足を楽しみに待てる活動」をそれぞれの計画に盛り込んだ。教師間で課題意識を共有することで、子どもの姿をより捉えることができた。
- 教師が積極的に働きかけたきっかけづくりとして
 - ・全体で一つのテーマに向かうための環境として、園舎内の廊下に動物公園のポスターや動物の写真を貼った。そのことで、より動物に興味や関心をもつ大きなきっかけとなった。
 - ・その後、園内に動物の写真を増やしていったり、動物園らしく見せるための工夫としてストーブの柵を檻にしたりするなど、教師も一緒に遊びながら実態把握と教師間で情報交換し合い連携をとりながら環境構成を考えていった。
- この遊びの中でのさまざまな体験
 - 5歳児：段ボールカッターをつかっての動物づくりや食べ物屋さんづくりから、ストーブの柵を見立てて自分たちで「場づくり」ができた。そのことが、みんながかかわりやすくなり遊びがより楽しいものとなって広がっていった。

4歳児：望遠鏡を作って同じものを持つことで、動物発見！から探検ごっこへと遊びのプロセスを紡いでいった。子どもたちの発想が次々に出てきて、1つのテーマから筋道ができていく過程が面白かった。

3歳児：教師と一緒に「動物園ごっこ」に参加し遊びを楽しんでいたが、その中で、年中・年長組のお兄さんやお姉さんから優しく受け入れられた。このように大切にされる経験や多様な遊びの中でいろいろな物とかかわる体験が、面白そう・やってみたい！と自分たちも遊びだすきっかけとなった。

○遊びに対するイメージが最初からなくても教師と一緒に動いていくことで、遊びのイメージが引き出され楽しい遊びへと広がっていった。教師が意図的に働きかけ、子どもの姿から振り返る、また子どもに返していく、このように共に遊びを作り出していく教師の姿勢が大事であることを痛感した。今後も教師間で連携をとり合い、環境の見直しや遊びのきっかけを積極的になげかけていきたい。

○「遠足を楽しみに待てる活動」としての計画が、みんなでかかわり園全体での「動物園ごっこ」としてここまで展開していくことを予想していなかった。動物が共通イメージを持ちやすかったことや、望遠鏡という同じ物を持つことでの仲間意識に加え、「動物発見！」と言うことばを発することも楽しく、一体感が持てたようだ。物だけでなく「ことば」も大きな役割をもっていると感じた。

また、異年齢の交流を通し育ちあう環境と教師間の連携など、普段の生活に土壌がなければこのような活動の展開はなかったのではないかと思われる。これからも「一人の子どもを全教職員で育てる」園内の体制を大切にしていきたい。

実践ビデオ研究— 会員の保育を研究部がビデオに撮り、視聴し話し合う—

◎実践例2 5歳児お家ごっこ 白梅幼稚園 5月

◎実践例3 5歳児プラネタリウムごっこ 盛岡市立好摩幼稚園 6月

実践例を話し合う — 4歳のごっこ遊びにおける育ちを探る—

◎実践例4 4歳児 お家ごっこ スコーレ幼稚園 12月

その他ごっこ遊びの場面から

IV 研究のまとめ

1 ごっこ遊びの面白さを次のように捉えた

○楽しいことを何度でも再現できる

○なりきって遊べる

○憧れの対象になれる

○自分ではない、強いものやかっこいいものやかわいいものになることができる

○本物のよう出来る

○友だちとのかかわりを楽しんだり、喜んでもらったりすることが出来る

2 ごっこ遊びにおける教師の援助について、次のことが大切であると捉えた

- (1) 「何を楽しんでいるか」「どういう自分になりたいと思っているか」(子どもの志向性)を見極めること
- (2) 場作りに必要なものの提示や材料の準備、なりきれる設定や素材、用具、衣装等を用意しておくこと
- (3) 遊びの中でその子なりの思いが出せるように、共感したり代弁したりすること
- (4) 相手の思いに気づいたり、受け入れたり楽しさを共感したりできるように仲立ちしていくこと
- (5) 教師もなりきって遊び、一緒に遊びを作り上げていくこと(子どもとの往還性)
- (6) イメージをつなげる橋渡し役、絵本、写真、ポスターの提示(可視化)や言葉かけ
- (7) 考えたり工夫したり相談できるような時間の保証
- (8) 遊びのイメージが豊かになるように、生活体験を広げていくこと

おわりに

- エプロン一つでお母さんになりきれ

⇒ ごっこ遊びは幼児期の発達に即した“イメージを豊かにする遊び”

- 楽しかった遊びの経験を重ねる、溜め込まれていくことが、まさに「生きる力の基礎」を培うことにつながるのだと思う。

- ・ 主体的に遊びを作り上げていく基礎になる。
- ・ 葛藤を乗り越えたり、人とのかかわりを学んだり、見通しをもって遊ぶことができるようになる。
- ・ 遊びが楽しくなると言葉が行き交う → 「言葉による伝えあいを育てる」 → 「思考力につながる」

【盛岡幼児研究会会員】

(私立)

認定こども園盛岡幼稚園
聖パウロ幼稚園
スコーレ幼稚園
盛岡大学附属厨川幼稚園
盛岡大学附属松園幼稚園
白梅幼稚園
つばめ幼稚園
ふじみ幼稚園

(国公立)

岩手大学附属幼稚園
盛岡市立太田幼稚園
盛岡市立米内幼稚園
盛岡市立つなぎ幼稚園
盛岡市立好摩幼稚園